

## クリスティン（元カトリック教徒・アメリカ合衆国）

（パート 1/2）



私の宗教への探求は、私が15、16歳の高校の時に始まりました。私は、私が友達であると思っていた悪いグループの人々と付き合っていました。やがて彼らが負け犬であることに気付きました。私は彼らの方向性と、それが好ましくない方向に向いていることを悟ったのです。私は将来の自分の成功がこれらの人たちのいかなる影響によっても汚されたくはなかった。自らを彼らから切り離しました。当初私は友達もなく一人だったので、大変でした。私は、自分自身と共にある何かと自分の人生の基盤となり頼ることの出来る何か...人ではなく、決して私の将来を破壊しない何かを探し始めました。自然と、私は神を探索するようになりました。けれど神とは誰か、何が真実かを発見することは容易ではありませんでした。とにかく一体何が真実なのか?!これが宗教を探し始めた頃の私の最初の質問でした。

私の家族には、多くの宗教的変遷がありました。私の家族にはユダヤ教と数種のキリスト教があり、そして今やイスラームがあります。アルハムドリラー（全ての称賛が神にありますように）。

私の父と母が結婚した時、彼らは子供を育てるためにどの信仰を選ぶか決める必要があったと感じました。彼らにとってカトリック教会が本当に唯一の選択肢(私たちの町は人口600人ほど)だったので、2人ともカトリックに改宗し、私と私の姉妹もカトリック教徒として育てました。私の家族の改宗の話を通してさかのぼってみると、それらは全て利便性のための改宗のように思われます。彼らが本当に神を探していたとは思えませんが、ただ目的達成の手段として宗教を扱っていたのです。過去のこれら全て

の変化の後も、宗教は私の母、父、姉妹または私にとって、決して最も重要なことではありませんでした。何かあるとしても、クリスマスとイースターの期間に教会で見かける家族であったくらいのことでしょう。私はいつも宗教が何か自分の生活から離れたものだと感じていて、1週間のうち6日は生活のために、そして1日は教会のために、それもまれな機会に教会へ行くのでした。言い換えると私は神自身と、そして日々その教えに沿ってどのように生きるかの自覚がなかったのです。私は以下の事柄を含むある種のカトリックの習慣を受け入れることが出来ませんでした。

- 1) 司祭への告白: 私は、どうして人間を介さないでただ神に告白することが出来ないのか、とっていました。
- 2) “完璧な”法王-預言者でもないただの人間が、どうして完璧であるのでしょうか？！3) 聖人崇拜-これは最初の戒律の直接的侵害ではないのでしょうか？14年の強制的な日曜学校の出席の後でさえ、これらとその他の質問で得た答えは“君はただ信仰を持たなければいけないのだ！！”というものだけでした。誰かが私にそう言ったから信仰を持たなければならないとでも言うのでしょうか？私は信仰が論理に訴える真実と答えに基づくべきだと思い、その答えのいくつかを発見したくなりました。

私は両親や友人、その他誰かの真実を求めていませんでした。私は神の真実を求めていたのです。私は自分の抱いていた全ての考えを心と魂で信じていたので、それが自分には真実であってほしいと思いました。そして自分の質問の答えを探すのであれば、客観的な思考で探すべきだと決心し、書物を読み始めたのです...

私はまず、キリスト教は自分の宗教ではないと決めました。キリスト教と個人的に何かあったわけではありませんが、特に聖書を読んだ時に、その宗教には多くの矛盾が含まれていることを発見したからです。聖書には、私が見つけた矛盾や何の意味もなさないことが数多く存在していたので、私は事実自分が彼らに質問したり気付かせようとしたりさえしたことを恥ずかしく感じたほどだったのです。

私の家族の何人かはユダヤ教徒だったので、私はユダヤ教も研究し始めました。私はそこに答えがあるかもしれないと思いました。それで一年ほどユダヤ教に関するあらゆることを、深く掘り下げて研究したのです！私は毎日読み、何かを学ぼうとしました(私はまだ正統ユダヤ教の合法的な食品の規律を覚えています！)。私は図書館へ行き、ユダヤ教に関する全ての本を借り、2か月の間にそこにあった情報を調べ上げました。またユダヤ教の礼拝堂へ行き、ユダヤ人と町の近くで話し、インターネットでは

ユダヤ教の全律法とその注解の集成本を読みました。友人のユダヤ人の一人が、イスラエルから私を訪問することさえあったのです。私は自分が探していたものを見つけたのかもしれないと思っていました。しかしユダヤ教の礼拝堂へ行き、私の改宗を正式に執り行うためにラビに会うはずだった日、私は後ずさりしました。私は正直、あの日何が私の外出を阻んだのか分かりません。私はドアから出ようとしてしましたが立ち止まって戻り、座りこんだのです。私は、走ろうとするけれども全てがスローモーションであるような夢の中にいるようでした。私はラビがそこにいて私を待っているのを知っていましたが、電話さえもしませんでした。また彼の方も私に電話をしませんでした。何か足りなかったのです...

ユダヤ教も私の求める答えではなかったということを知った後、私は(両親からの大きなプレッシャーにより)キリスト教にもう一度とりかかってみようと思いました。先に述べた通り、何年もの日曜学校の専門的知識が良い下地にはなっていましたが、私はそのような専門知識の裏に潜む真実を探すことにより大きな関心がありました。その全ての美しさは何で、その保障はどこにあって、そしてそれをどのように論理的に受け入れられるのか？キリスト教を真剣に考えるようなことはあっても、カトリックはその範疇外にありました。私は自分の町のルーテル教会、ペンテコステ教会、モルモン教会、特別な宗派には属していない教会など、その他全てのキリスト教会に足を運びました。それでも私は、探していた答えを見つけられませんでした！！私をそこから離れさせたのは彼らの環境ではなく、不快な宗派間の矛盾でした。私は正しい道が1つだけであることを信じていましたが、そうでなければどうして“正しい”宗派を選ぶことなどは出来ませんでした。憐れみ深く慈悲深い神が人類にこのような選択肢を与えるのは、私にとって不公平かつ不可能である以外の何ものでもありませんでした。こうして私は途方にくれました...

## (パート2/2)

チャットルームでイスラームを紹介された後、クリスティンは宗教研究のために図書館でクルアーンを読んでいる時、涙を流している自分に気づく。

この時、私は自分の探求を始めた時と同じ位にただ混乱し、イライラしていました。私は神に自分の腕を放り上げ、“今度は何ですか？”と叫んでいるような気分でした。私はユダヤ教徒でもキリスト教徒でもなく、ただ唯一神を信じる人間でした。私は組織的な宗教を全て放棄しようと考えました。私が求めていたのは真実で、それがどの神聖な書物によってもた

らされたのかは気にしていませんでした。ただ真実だけが欲しかったのです。ある日私はインターネットの記事を読んでいて休憩しようとしたところ、ふとチャットルームを見つけました。私はそこに自分が興味があった“宗教”という項目があるのに気づき、クリックしてみました。私はそこに“ムスリム”という部屋を見つけました。入るべきだろうか？私はテロリストが私のメールアドレスを手に入れ、コンピューターウイルスをパソコンに送って来たり、またはそれ以上のことをされたりしないように願いました。そして黒い服に大きな顎髭の大男がドアから入って来て、私をさらっていく光景が頭に思い浮かびました（これで私がどのくらいイスラームについて知っていたかお分かりでしょう...ゼロです！）。それから私は、これはただの純粋な調査じゃないかと思いました。そして決心してチャットルームに入ってみると、そこに参加している人々が自分が想像していたほど怖くないことに気付きました。事実、大抵の人がお互いに旧知の仲であるかのように“兄弟”“姉妹”と呼び合っていました。私は皆に挨拶し、そして私が何も知らないイスラームの基本について教えて欲しいと言いました。彼らが説明してくれたことは興味深く、しかも私が既に信じていたこと一致しました。ある人は私に本を送ってくれると言ってくれたので、私はそれをお願いしました。（ところで私はウイルスも受けなければ、私の夫を除いては男性がドアの前に現れて、私を連れ去るといったようなこともありませんでした。無論夫は私のことを無理矢理連れて行ったわけではありませんが！）チャットからログオフすると私は直接図書館に行き、ユダヤ教の時と同じようにイスラームに関する全ての本を借りました。私は読み、もっと学びたかったのです。以前私は多数の本を持ち帰っても、軽く流し読むだけでした。しかし今回は私にとっての分岐点だったのです...最初の何冊かはイスラームの基本を詳細に説明しており、また別の何冊かは学術的で、巨大な美しいモスクやスカーフをまとった女性の写真が掲載されていました。そして幸運にも、私はクルアーンを借りて来ていました...私はそれを適当に開いて、読み始めました。まずその言語が私に衝撃を与えました。そして他の“神聖な”書物を読んだ時とは異なり、人間ではなく何らかの権威あるものが私に話しかけているようなように感じました。私が読んだ一節（不幸にもどれだったか分からないのですが）は、神がこの世で私たちにするよう望んでいることと、かれの命令に沿ってどのように生きるかについて書かれてありました。そこには神が最も寛大で慈悲深く、よくお赦しになれる方であると書かれていました。最も重要なのは、私たちがいつか神の御許に戻るということです。私の涙が一粒一粒、読んでいるページを打つ音が聞こえました。図書館の真ん中で私は泣いていました。なぜなら私は全ての探求と疑問の後、ついに自分の探していたもの-イスラームを見つけたからです。私は沢山の宗教文学を読んでいた

のでクルアーンの特徴は知っていましたし、どれもこれほど明確であったり、このような気分を与えたりするものはありませんでした。今私は神の英知を見出しました...私はイスラームを発見する前にユダヤ教とキリスト教を探究させられ、そうすることでそれら全てをイスラームと比べ、それらが虚無であることを気づかせられたのです。

この時から、私はイスラームを研究し続けています。私はユダヤ教やキリスト教でそうしたようにそこに矛盾を探そうとしましたが、そのようなものは何も見つけることが出来ませんでした。私はクルアーンを徹底的に調べ、どんな矛盾でも探しましたが、今日に至るまで1つたりとも矛盾を見つけては出来てはいません！私がクルアーンにおいて気に入った別の素晴らしい点は、読者に質問を投げかけて挑戦しているところです。クルアーンは、もしそれが神からのものでなければ、あなた方はその中に多くの矛盾を見つけてください、と言っているのです。イスラームには何の矛盾もないどころか、それは私の思い付くあらゆる質問に意味のある答えを提供してくれました。

それから3ヶ月後、私はイスラームが答えであると決意し、信仰告白をすることにより正式に改宗しました。しかしながら私の近くにはムスリムもモスクもなかったのです(最寄のモスクさえ家から6時間ほどかかるところにありました)、信仰告白をスピーカーフォン越しにペンシルバニアのイマームについて言わなければなりません。私は自分の改宗する決意を決して後悔したことはありませんでした。私の近くにムスリムは住んでいなかったのです、私は自分自身で進んで学ばなければなりませんでしたが、真実を学んでいたのです決して疲れることはありませんでした。イスラームを受け入れることは私の魂と心、そして世界観さえ目覚めさせるもののようなものでした。

それは視力の悪い人に例えられるかもしれません。彼らは授業についていくのに苦労し、集中出来ず、その障害のために常に試練に遭います。しかしもしあなたが彼らに眼鏡をあげさえすれば、全ては明らかになるのです。これが私のイスラーム経験です。そしてそれは、まるで初めて本当に見えるようになるための眼鏡を手にしたようなものだったのです。